

2006年5月別山南尾根

W部+N島+S谷+イジラ+伊藤

5月2日 21時府大発（しかし、ちくまが無くなり、夜行の松本行きバスもないとなると大町は遠い）名神は相当の渋滞でちっともすすまん。

5月3日

ダム(700)ー内蔵ノ助出合(750)ー鳴沢出合手前とりつき(830)ー南尾根 P7(1100)・P6(1300)
ー二段岩峰フィックス工作(13:00ー16:00)

予想通り 5月としてはありえないくらいの雪で、岩に引っかかっているブロックの崩壊が誘因となって黒部の本流に向かって大量の土砂混じりの雪崩が発生している。



ダムからの下り自体がいつ頭の上から雪崩て来るか心配になるほどである。とくに丸山谷からのデブリは記憶がないほど巨大であった。雪が少ないととっても苦勞する内蔵助出合は難なく通過。

でている藪は少ないので雪を拾いながら比較的楽にとりつき比較的楽に登る。トレースがないので誰もいないと思い、少し喜ぶ。



P7あたりからトレースがでる。さらに内蔵助側の雪面から人が現れる。3人パーティが二段岩峰にいるのが見える。うしろからも3人パーティが追いついて

くる。P5にいけたらいきたいと思っていたが、2段岩峰の先行パーティからの落石が危なくてついていけない。結局、2段岩峰にフィックス工作をすることに。



先行パーティは、18時過ぎまでコールが聞こえていたが、翌日見るとP5には抜けていなかった。しかし、南尾根に3パーティもとりつくなどとは、驚きである。まだ登れる社会人山岳会が残存していたとは。それにしても、みんな内蔵助側からとりつくという相当つらいルート選択である。ここは、内蔵助側から雪面を使って簡単に取り付けそうに見えるが、

実は尾根上にあがる手前に障壁があって、左へ左へ追い上げられてしまい、ほとんどP7手前でようやく尾根にあがれる状況である。あまりお勧めではない。

5月4日

P6(520)ー二段岩峰(800)・P5(920)ーP4(1150)ー大キレット(1300)ーP3(1520)
ー小キレット(1700)ーP2・P1ーP0・南峰手前(1930)



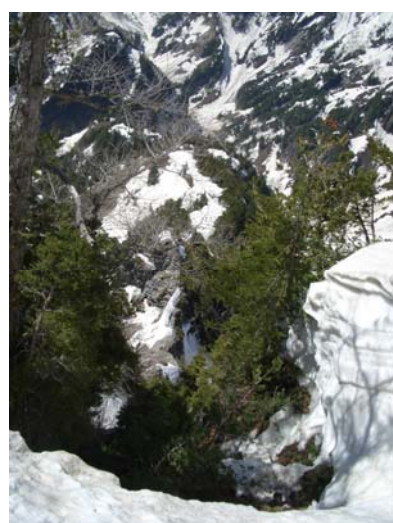
二段岩峰は、30 m、50 m で抜ける。



しかし、完全な崩壊岩場でいつまでこの形状が残るのか心配になるくらいである。抜けたあと、内蔵助側を登り気味のトラバース 50m x 2 で雪面に入る。トラバースにはいるところがガレガレの急傾斜で、それを 3m 下降せねばならず、ラストのイジラは 20 年前の残



置フィックスを頼ってトラバースに入る。ハーケンを打ってランニングをとったが、カムの方がよかったかもしれない。



P5 側面の雪面は大きいですが、クレバスが開きまっすぐ登ることができない。50m 左上に斜上し、クレバスの左端から強引に上の雪面にとりつき 50m 直

上すると、P5 洞穴の下に出る。そこから黒部側に回り込み雪面を直上 50m で P5 直下に抜ける。

大キレットまでは、大きな問題はないが、いちおうザイルを張りながらすすむ。ザイル 3 本なので、リードへのザイルとギアの供給がしんどい。通過するまで待っていると時間がかかってしまうので、急なところは途中でザイルをクリップしながらラストの 2 名は 10 m 間隔くらいで登る。大キレットは、一段藪伝いに下降し、50m を 2 回懸垂でキレットの底に降り立つ。最後は空中懸垂。キレットの底は狭いのでうっかりすると内蔵助側に出過



ぎてしまったり逆に黒部側に出すぎてしまったりする危険がある。

ザイルが 3 本しかないので、最初を 2 本で、次を新品のシングルで懸垂。



P3 への登りは、50m を 3 ピッチはって急な雪壁をのぼる。しかし、先行パーティはスリングの残置がまったくみられず、とっても不思議である。

次の難関は小キレットである。下りだしは、急な雪稜 10m から内蔵助側の雪壁に入り右に回り込みつつ 20m まっすぐにおりる。そこから下は、クライムダウンできないこともないが、懸垂を選択した。ここの下降に手間取ってしまった。



対岸を 50m x 3 でのっこすと雪稜になり、その先が 3 m ほどの雪壁になっており、ここがそのままとおりにられない。仕方がないので、懸垂する。さらに 50m x 2 でようやく P2 を抜ける。P1 まではザイルをこまめに出しながら進んだが、それ以降はさすがにノーザイルですすむ。

最後は、暗くなってしまった。

脱水が来るくらいがんばったが、疲れた。雪稜を切り、整地してテントを立て、水を作って、たらふく飲んで晩飯を作ったりしていると夜も 12 時近くなる。

しかし、11 時をすぎると黒部にしても内蔵助にしても大ごう音とともになだれてくる。



内蔵助にでているデブリは、内蔵助平にまで余裕で届いているうえに、主稜線上には大きな雪庇がのこり、斜面にはブロックが待ちかまえているという有様。

5月5日

TS(630)-南峰(650) -主峰-ハシゴ谷乗越(900) -内蔵助出合(1200) -ダム(1330)



しかし、剣は相当の雪である。剣山荘がまったく視認できないくらい埋まっている。3月末と同じくらい雪がある上に気温が高いのだから、危険ではある。

イジラの足首と伊藤の膝の調子が思わしくないことや、南風が強く近々雨になると予想されることなどを考え、下降することにした。ハシゴ谷でしばらく考えたが、日曜までかかりそうだったことや、末端稜の雪面が雪が多くてとつてもいやらしいそうだった。3稜の下部の滑り台のルンゼがデブリがでておらず、危険と判断したこともある。

しかし、剣に人は少なく、こここのところの事故の薬がさすが効いたのか自信のない人があふれかえるという状況ではなさそうだ。出発前におこった御前谷の雪崩も相当なもので、いつもと同じ調子でスキー屋さんとボード屋さんたちがいたら大惨事だったろう。

ともあれ、立山や内蔵助にスキーのシュプールが数人分を除いて視認できない。(あとで記録を見るとマッコウたちのシュプールみたい。一人は、相当細かくターンしているが、ほかのひとは斜滑降入りのシュプール。) それでも信じられんことに、八つ峰1峰4の沢のデブリのすぐ先にテントを立てている馬鹿がいる。(これは、マッコウたちではないみたいですね)。



内蔵

助は、丸山東壁2ルンゼ、1ルンゼと別山南尾根からのデブリでひどいことになっている。ダムへの登りも、赤沢「西尾根の末端に残ったブロックが落ちてきており、土砂混じりのデブリが斜面の半分以上を覆い尽くしているありさまだった。